これからの情報社会に必要となる「情報モラル」を どのように育てるか？

常葉大学教育学部　講師

酒井　郷平

1．子どもたちの利用実態と情報モラル

■子どもたちの利用状況は？

①LINE　小学生（高）：男子　約（　　）％　女子　約（　　）％

中学生　　：男子　約（　　）％　女子　約（　　）％

②Twitter　小学生（高）：男子　約（　　）％　女子　約（　　）％

中学生　　：男子　約（　　）％　女子　約（　　）％　※Instagram もほぼ同数

③TikTok　小学生（高）：男子　約（　　）％　女子　約（　　）％

中学生　　：男子　約（　　）％　女子　約（　　）％

※より解像度が高い情報発信・共有が主流に

■ 主なトラブル

1 悪口・いじり

グループトークでのいじりや無視、短文の意味の取り違いによるケンカ

2 不適切情報の発信

悪ふざけの写真やデマの書き込みなどの SNS での発信による炎上

3 不適切サイトの閲覧

性的描写や暴力表現など青少年にふさわしくないサイトを見て、過度な影響を受ける

4 著作権の侵害

無許可の映像や音楽のアップロードや、違法と知りながらの音楽や映像のダウンロード

5 知らない人との出会い

SNS で知らない人から会うことを求められたり（誘い出し）、自分の画像を送ることを求められる

6 高額課金

たくさんのお金を使って、ゲームのアイテムなどを購入してしまう

7 長時間利用

ゲームや動画、SNS の使い過ぎで体をこわす

8 不正なアプリのインストール

不正なアプリのインストールによる個人情報の流出や遠隔操作による被害

そもそも，なぜスマホはやめられない？

①人とのつながり・リアクション　　②興味の高いコンテンツの提示

③短時間で楽しめる　　④飽きさせないための制限

■学習指導要領（総則）では

児童生徒の発達の段階を考慮し，言語能力，情報活用能力（情報モラルを含む。）等の学習の基盤となる資質・能力を育成するため，各教科等の特性を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとすることを明記。

情報を上手に活用する力　＋　情報のリスクに対応する力

モラルの側面：社会の変化とあまり連動しない，リテラシーの側面：社会の変化と連動する

※特に「モラルの側面」をどのように醸成していくか

２．情報モラル育成のポイント

■これまでの情報モラル教育では，リスクに対応する力を育てていたのか？

リスク・・・　発生の確率　×　影響（被害）の大きさ

①リスクへの自覚	②リスクの発見	③リスクの見積もり	④リスクへの対応
（自分事化）	（特定）	（分析・評価）	（クライシス対応を含む）

※　これまでの情報モラル教育で取り組んでいたのは？

※　これからの情報モラル教育で取り組むべきなのは？

■指導のポイント①（主に「コミュニケーション」のトラブルへの対応）

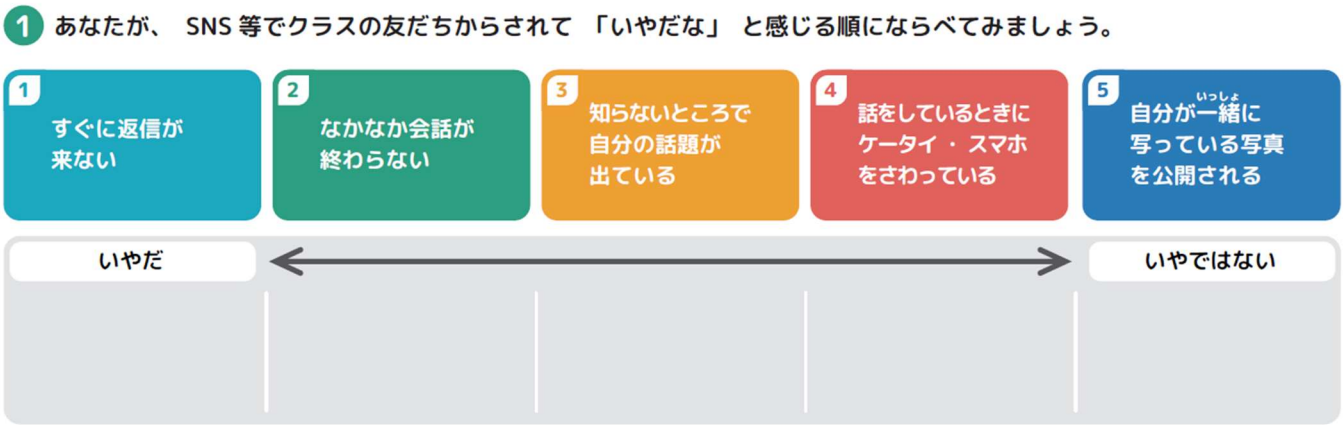
トラブルへの「自覚」を促し，「自分ごと」として考えさせる

⇒何が「悪口」なのか，何が「不適切な写真」なのかについて，カード教材で**ズレを議論**させる。

⇒「自分の嫌なことと相手の嫌なことは同じだろう」と思い込んでいると，トラブルが起きやすい。

⇒「**もしかしたら自分もやっちゃってるかも…」という自覚**を促す。

◎実践事例：「自分と相手とのちがい」



※ このふたりには，どのようなトラブルが起きる可能性があるだろうか？

※「自分がされてイヤなことは，相手にもしない」は適切か？

■指導のポイント②（主に「個人情報」のトラブルへの対応）

リスクの見積もり力（危機予測） を高める

⇒「何が危険か」はわかっているが，「**どのくらい危険か**」**がズレやすい。**

⇒ １か０かの発想ではなく，**リスクのグラデーション発想**

「どのような特徴があったら，危険と判断すればよいか」という**危険を予測する力を育む**

リスク小／問題ない	リスク中／ちょっと危険	リスク大／かなり危険

※子どもたちが情報社会で生きていくことを考えると，

「SNS に写真を公開しない」，「個人情報を守る」という指導から，

「リスクを判断・回避する」できるスキルの育成へ。

■指導のポイント③（情報モラルの時間の確保）

※【参考】情報モラル教育実施フロー

①児童生徒の実態把握：画一的な指導ではなく，学校や地域ごとに児童生徒の実態を把握し，取り組むべき情報モラルの目標を明確にする。

↓

②年間指導計画の作成：年間指導計画の作成により，教科や学年を意識しながら，情報モラルの指導イメージを学校内で共有する。

↓

③指導方法の検討：指導計画や目標に応じて，具体的な場面ごとの指導方法を検討する。

↓

④実践と評価：指導の実践と評価を行い，指導の充実や改善を図る。

まずは，無理をせずに出来るところから進めていく

⇒情報モラルを授業としてだけではなく，情報活用場面の「導入」や「ふりかえり」として意識させる

「体験→模倣→アレンジ」により段階的に指導へ

⇒校内研修会等で先生方自身が情報モラル教育を体験し，教材を理解いただくことが大切

「トラブルベース」だけでなく「活用ベース」の情報モラル教育も

道徳や学活，総合などで実施する情報モラル教育

＋

各教科（タブレットを使用する場面）で実施する活用型情報モラル教育

3．GIGA ワークブックのご紹介

■「GIGA ワークブック」の開発

- ✓ 「情報活用」と「情報モラル」をセットで学ぶ
- ✓ 45 分でも 15 分でも実施でき，学級で議論できる
- ✓ ICT の活用場面で使える「活用型情報モラル」教材

◎活用事例：「活用型情報モラル教育」

ICTの活用場面
（8場面）

活用場面ごとに，**①活用スキル**，**②情報モラル**，**③情報セキュリティ・トラブル対応**を学べます

（1 コンテンツあたり約 10～15 分）

考える／活用スキル（中学校）

考える　活用スキル

アンケートの質問項目をつくろう

問題を解決するために、アンケート調査を行うことがあります。
しかし、アンケートの項目をきちんと考えないと、意図したデータを得ることができません。
次のアンケートの問題点に〇を付け、なぜ問題なのか、どのように改善すればよいかを考えてみましょう。

○○市の好きなところに関するアンケート
このアンケートは、○○学校が授業の一環で実施しています。 全員必ず回答してください。
1．○○市の自然や食べ物は、よいと思いますか？ ①とてもよい　②まあよい　③あまりよくない　④まったくよくない
2．○○市のよいところをすべて選んでください。 A：食べ物　B:観光地　C:自然　D：人の温かさ
3．○○市には新幹線が通っていないので、とても不便です。 新幹線を通すべきだと思いますか？ ①そう思う　②そう思わない

【各自治体の GIGA ワークブック情報】

LINE みらい財団 HP「GIGA ワークブック」自治体オリジナル版の導入自治体一覧

https://line-mirai.org/ja/events/detail/68

※【参考】文部科学省「情報モラル学習サイト」

【おまけ】生成 AI の導入でどう変わるか？

●生成 AI を学校現場で活用する際の基本方針

① 現時点では活用が有効な場面を検証しつつ、限定的な利用から始めることが適切である。生成 AI を取り巻く懸念やリスクに十分な対策を講じることができる一部の学校において、・・・（中略）・・・パイロット的な取組を進め、成果・課題を十分に検証し、今後の更なる議論に資することが必要である。

② その一方、学校外で使われる可能性を踏まえ、全ての学校で、情報の真偽を確かめること（いわゆるファクトチェック）の習慣付けも含め、情報活用能力を育む教育活動を一層充実させ、AI 時代に必要な資質・能力の向上を図る必要がある。

③ 教員研修や校務での適切な活用に向けた取組を推進し、教師の AI リテラシー向上や働き方改革に繋げる必要がある。

●留意すべき使用場面の例

① 児童生徒の発達段階・学習段階

② 生成物の使用場面（応募，芸術等の創造，調べ学習）

③ 専門性の代替（コメントや相談の代替）

④ 評価としての使用（小テストや期末考査）

⑤ 教師の使用（子供の学習評価）

※従来の学習（教授）活動の目的を妨げる使用は，不適切と考えられる